

平成29年度 佐賀県立佐賀工業高等学校(定時制) 学校評価計画

1 学校教育目標 歴史に培われた伝統に学びながら、21世紀を担う平和で民主的な社会の形成者として、人間愛に満ちた心身共に健全で逞しい工業技術者を育成する。 校訓 「至誠剛健」(誠実で心身ともに逞しく)	2 本年度の重点目標 ア 規律ある高校生活の定着 イ ものづくり教育の推進 ウ 開かれた学校づくりの推進
-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------

3 目標・評価

①学力の向上

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌	担当者
教育活動	●学力向上	・各教科における基礎的学力の育成	・生徒の学力を常に把握し、基礎的な内容の定着を図る。	・生徒の学力を把握するとともに、個々の学力に応じた基礎的な内容や一般常識の学習を授業に取り入れ、学び直しや繰り返し学習を行う。	教務	原口
教育活動	●教育の質の向上に向けたICT利活用教育の実施	・授業における電子黒板の活用 ・授業における学習用パソコンの活用	・電子黒板で映像や図式等を表示することにより、授業での理解力向上を目指す。 ・学習用パソコンを積極的に活用し、見識と社会的視野を広げるとともに、積極的に授業参加する態度を育てる。	・学習用パソコン及び電子黒板を用いたデジタル教材活用法について職員向け研修会を行う。 ・デジタル教材(自主教材)の制作及び収集を行い、それらを効率的に利用できる環境を整えることで、教材の充実を図る。 ・インターネットを使った生徒の情報収集の機会を増やす。	教育情報推進担当	片桐成富

②ものづくり教育の推進

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌	担当者
教育活動	○ものづくりと資格取得の推進	・資格取得推進と各種大会参加	・難関資格へのチャレンジと受験者全員の合格を目指す。	・資格取得に対する意識を高める指導を行う。 ・難関資格取得を目指す生徒に対して補習などを行い、多くの資格取得を目指す。 ・工業技術研究発表大会等への積極的な参加を促す。	機械科 電気科	梶原田中
教育活動	○地域との連携	・地域ボランティア活動	・地域の清掃活動 ・地域のイベントへのボランティア参加	・学校周辺の地域の清掃活動を行い、地域の方々との交流を深める。 ・佐賀インターナショナルバルーンフェスタでの大会ボランティア活動を行い、地域イベントへの協力支援を行う。	総務	田中

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌	担当者
教育活動	○進路指導	・早期の進路目標を持ち、関心を高める指導の実践 ・進路実現の達成	・コミュニケーション能力(特に挨拶、自分の考えを伝えることができる力)の向上を図る。 ・他者と関わりながら成長し、さまざまな変化に対応できる人材の育成を図る。 ・一般常識力を高める。 ・在校生の就業率を80%以上とする。 ・卒業時の進路決定率100%を達成する。 ・入学時から系統立てた進路指導を充実する。 ・ハローワーク等との連携を図り、進路先開拓や情報の収集を行う。	・積極的に挨拶ができるように指導し、授業中に発表する時間を取り入れ、自分の考えを発表できる力をつける指導を行う。 ・欠席をなくすため、自己の健康管理について指導する。 ・授業に一般常識学習を取り入れ、身につく指導を行う。 ・就業を継続することの重要性を意識させ、進路に対する意識を高める。 ・生徒が希望する企業へ、定時制生徒の受け入れを依頼し、企業の開拓を図る。 ・ハローワーク等の講師を積極的に活用した進路ガイダンスを行う。 ・進路調査をもとに、必要な生徒への支援や面談を実施する。	進路指導	土師

④生徒指導の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌	担当者
教育活動	○生徒指導	・基本的な生活習慣の確立及び素直な態度の育成	・気持ちよい挨拶ができ、遅刻・欠席をしないなど社会人として必要な素養を身に付けさせる。	・登下校時の挨拶指導に取り組む。(毎日の登校指導) ・清潔な身なり、実習室や教室での5S(整理・整頓・清潔・清掃・躰)運動を指導する。 ・茶髪・ピアス・特異な髪型等の指導および、入室作法や言葉遣いなどのマナー指導を全職員で徹底する。 ・自動車・原付バイク・自転車の安全運転指導、定期的な交通用具の点検指導を行う。	生徒指導	松本
教育活動	●心の教育	・豊かな人間性の育成	・道徳教育を推進し、命を大切にすることを育成する。 ・相手の気持ちを思いやる心を育てる。	・道徳教育に関する年間計画を作成し、健康・安全・心の教育・交通講話・消費者教育等の講演会、講話を充実する。 ・校内生活を通じて相手の気持ちを思いやる心を育てる。	保健厚生	坂本原
教育活動	●いじめの問題への対応	・いじめのない健やかで穏やかな学校生活を営むことができる環境と体制づくり	・「未然防止」「早期発見」「早期対応」に向けた体制の推進。 ・いじめを「しない」「させない」「ゆるさない」心を醸成する。	・学期毎のアンケート調査ならびに担任による面談を実施する。 ・生徒会と連携した啓発活動に取り組む。 ・生徒が相談しやすい環境づくりを行う。 ・全職員による覚知と認知に関わる情報の共有化を図る。 ・問題発生時には関係機関との連携強化を図る。	生徒指導	松本

⑤健康・体づくり

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌	担当者
教育活動	●健康・体づくり	・給食指導の推進 ・望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成 ・スポーツ大会の実施	・生徒の給食喫食率70%以上を目指す。 ・給食指導を通して望ましい食習慣の定着を目指す。 ・食中毒を防ぐための日常的な衛生管理を徹底する。 ・生徒会主催のスポーツ行事を充実する。	・給食前に給食室への移動を促し、全ての生徒が喫食できるような環境を構築する。 ・集会等で食育及び食中毒や手洗い指導などに関する教育を行う。 ・年二回のクラスマッチの他に生徒会主催のスポーツ行事を実施し、生徒間の交流を図るとともに学校への帰属意識の醸成を図る。	保健厚生 保健体育	坂本原 小宮蒲原

⑥人権・同和教育の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌	担当者
教育活動	○人権・同和教育の推進・支援	・あらゆる差別や人権侵害をなくす取り組みの実践 ・生活全般にわたる人権・同和教育に係る教職員研修の充実	・生活の各方面にわたる人権教育の立場から、人権・同和教育についてのホームルーム活動を全学年全クラスで実施する。 ・ホームルーム活動等で差別や人権侵害をなくすための指導を行う。 ・教職員の人権・同和教育の意識を更に向上させる。	・公的機関の提供する啓発動画などを活用し、具体的事例をもとに全生徒対象の研修会を実施する。 ・良好な人間関係を構築したり、コミュニケーション力を養うための指導を行いホームルーム活動の充実を図る。 ・人権・同和教育に係る教職員研修会を複数回実施するとともに、外部の各種研修会へ1回以上参加する。	人権・同和教育担当	石丸土師

⑦教育相談の充実

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌	担当者
教育活動	○教育相談の推進・支援	・組織的な教育相談体制の整備 ・スクールカウンセラーの活用と連携	・全職員で情報共有を行いながら、多様な悩みや問題を抱えている生徒に対して、組織的、機動的にきめ細やかな対応を行う。 ・スクールカウンセラーを有効に活用し、情報共有しながら保護者とも連携し問題解決にあたる。	・定例(月1回)のケース会議を実施し、全職員で情報提供し、組織的教育相談の体制を確立する。 ・担任・副担任と教育相談担当やスクールカウンセラー連絡を密にし、保護者との連携や対象生徒への指導法等に対する共通理解を図りながら指導・相談にあたる。	保健厚生	坂本原

⑧ 事務職員の学校運営への積極的参画

領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	担当分掌	担当者
学校経営	○接遇・対応(事務室)	・事務室窓口に来られる来客者・保護者等に対しての窓口対応 ・事務室職員の電話対応	・窓口にくらまれる来客者・保護者に親切かつ丁寧に対応する。 ・電話対応を迅速・丁寧・親切に行う。	・来客者には学校に対する不快感・不信感を与えないよう臨機応変に対応する。 ・電話対応は、内容を明確に理解し、電話をかけられた方が不快感を感じることがないように迅速丁寧に対応する。また、真摯な態度で接し、迅速な対応に努める。	事務	築地

●は共通評価項目、○は独自評価項目